

会長挨拶

人々の幸せのために



栃木県看護連盟会長
坂主リツ

栃木県看護連盟会員の皆様、私はこの度、平成26年度栃木県看護連盟総会に於いて、伊藤正子前会長の後任として就任となりました坂主リツでございます。

今まででは前会長を中心に、役員を始め支部長、各施設の看護部長共々、目標に向かって成果を上げてきました。これは、前会長の人となりの素晴らしい裏打ちされたものが多くあったように思っております。

さて、会員の皆様は既に看護連盟の役割はご存じのことと思いますが、看護協会との連携が前提で行われるべき役割があります。

看護協会では看護の質の向上のため沢山の研修会を行っております。

そして、看護連盟ではその教育の実現のための環境作りをしております。

そのためにしっかりと予算措置や支援体制が必要となります。それを解決するために私達の代弁者を国政に送ることが看護連盟の役割と認識しています。

私は、「看護職員が元気で働くことは沢山の人々の幸せをつくる。」をモットーに掲げ、一人でも多くの会員を増やし、仲間意識を高めあえるよう人の輪を広げていきます。経験浅い会長ではありますが皆様のご協力を宜しくお願い致します。

個人と組織の力の強化



日本看護連盟会長
草間朋子

「看護師は、チーム医療のキーパーソン」といわれるようになってから2年が経ちます。

一人ひとりの看護職、そして、組織としての連盟は、名実共に、看護師がチーム医療のキーパーソンであることを医療界および社会に示して行かなければなりません。

患者さん達に寄り添い、患者さんの状態を四六時中、見守り続けている一人ひとりの看護師は、アセスメント能力を磨き、療養上の世話および診療の補助行為を通して、患者さん達の状態をマネジメントし、さらに、その結果を医師、薬剤師、管理栄養士などに提供し、医療スタッフ間で患者さんの情報を共有できる状況をつくっていくことがキーパーソンとしての役割です。

キーパーソンとしての看護師の質向上のための教育・研修環境や働く環境を整備する活動は、政治を動かす組織の役割です。

また、医療従事者間および患者さんとの信頼関係の構築が不可欠です。看護師一人ひとりの努力はもちろんですが、組織としての活動も不可欠です。チーム医療の中での看護師の役割をしっかりと社会に発信し、私たちの活動をもっと社会にアピールしていかなければと思います。

ベッドサイドで抱える看護のさまざまな課題は、組織の力なくして解決できません。患者さん達のQOL向上に向けて看護連盟の力を強化ていきましょう。